

「窒息が原因の院外心肺機能停止例に対するラリングアルチューブによる気道確保と急性期生存率の関係」について

加古川中央市民病院救急科では、表題の研究を行っております。内容については下記の通りになっております。

尚、この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究の概要及び利用目的】

窒息による死亡者数は年間 1 万人と不慮の事故死の原因として最も多く、本邦では救急医学会主導による窒息に関する臨床研究が継続されています。

窒息が原因の院外心肺停止の患者さんの自己心拍再開の有無と、急性期生存（入院後 7 日間）の有無からみたバイスタンダー CPR（目撃者による心肺蘇生）率、救急隊活動時間（接触・気道確保・静脈路確保）、気道確保の種類、自己心拍再開までの時間の検討、さらに気道確保の種類（バッグマスク、ラリングアルチューブ、気管挿管チューブ）別による自己心拍再開率、急性期生存率を検討します。

このことにより、窒息が原因の院外心肺停止の患者さんの急性期生存率の向上にもつなぐことができる改善すべき要素を明らかにし、今後の当医療圏における救急隊病院前救護処置の手順、救護戦略、病院内治療方針を見直すことを目的としています。

【研究期間】

研究実施期間：病院承認日～2020 年 12 月 31 日

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

基本情報：年齢、性別

患者情報：バイスタンダー CPR（目撃者による心肺蘇生）の有無、救急隊活動時間（接触・気道確保・静脈路確保）、気道確保の種類、自己心拍再開の有無（率）、自己心拍再開までの時間、急性期生存の有無（率）

【個人情報保護の方法】

特定の個人を識別できないように処理し、対応表作成を作成し、対応表はネットワークに接続しないパソコンに保管します。個人情報を外部機関へ提供しません。

研究対象者個人が識別されないように成果報告します。

【データおよび試料提供による利益・不利益】

本研究は既存情報を用いた観察研究であり、研究対象者に直接の利益、不利益は生じません。

利 益：通常診療の情報を用いており、患者個人には特に利益になるようなことはありません。しかし、本研究への参加を通じて、医学の発展や社会全体の医療水準の向上に貢献することになります。

不利益：カルテからのデータのみ利用するため不利益はありません。

【登録終了後のデータおよび試薬の取り扱いについて】

採取した試料・データ等は少なくとも本研究の終了報告から5年間、加古川中央市民病院医局の施錠可能な場所で適切に保管します。対応表を保管する場合も同様に保管します。対象者及びその家族等から参加拒否または同意撤回があった場合には、対象患者に関する試料・データはすみやかに廃棄いたします。

【研究成果の公表について】

研究データの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。匿名化対応表は、該当する患者さんが診療を受けた病院の研究責任者や個人情報管理者などが保管・管理します。

【研究へのデータ使用の取りやめについて】

試料・情報の研究利用の拒否および同意の撤回はいつでも可能ですので、下記問い合わせ窓口にご連絡ください。しかし、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合は廃棄できない場合がございます。

尚、拒否および同意撤回による不利益は一切生じません。

【問い合わせ窓口】

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかお知りになりたい場合や、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究プロジェクトに関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 救急科

主任科部長 切田 学

連絡先：079-451-5500